

土・まち・みどり

通信第 39 号

2010.5.9

発行 土とみどりを守る会
連絡先 3718-8558(柳島)

CONTENTS ◆早春のつどいレポート1 ◆おくさわ今と昔(東工大歴史探訪) ◆早春のつどいレポート2
◆描かれた奥沢とその周辺(新シリーズ) ◆失われゆくみどり ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

2月6日(土)に早春のつどいが開かれました。当日は75名の参加者があり大盛況の中、第1部は平野久美子さんのお話、第2部は浦沢正恵さんのピアノ演奏(3頁に掲載)でした。

早春のつどいレポート1

お話「台湾が遺した昭和の家並み」

平野さんのプロフィール

平野さんは学習院大学卒業後、出版社勤務を経て執筆活動をされているノンフィクション作家で、多角的にアジアをとらえた作品を多く発表されています。第6回小学館ノンフィクション大賞受賞の「淡々有情-日本人より日本人の物語」をはじめとして、「テレサ・テンが見た夢-華人歌星伝説」、「トオサンの桜-散りゆく台湾の中の日本」、「水の奇跡を呼んだ男-日本初の環境型ダムを台湾につくた鳥居信平」他アジアの食文化・中国茶等についての多数の著書があります。また彼女は当会の理事でもあり、みどりの住環境作りに熱心に取り組んでいます。

台湾の日本住宅

台湾には日本統治時代(1895~1945)の官舎や個人住宅が各地に残り、そのほとんどが昭和の初めに建った木造住宅で、どこか奥沢の海軍村に似た佇まいもあるそうです。今回のお話では、台北市の保存運動を例にとって、そこから生まれた新旧住民の交流等を現地の住民が制作したビデオ等で紹介してもらいました。

日本人住宅をめぐる新旧住民の交流

ビデオは台北市内の青田街の住民が、偶然見つけた日本人の写っている写真から始まります。写真に写って

いる人が誰であるかが分かり、当時の日本人住宅の住人を推定し、日本に帰国した人に送って

問い合わせます。日本人側も消息を探していく内に、両国住民の間に交流が生まれ、昔のわだかまりが解けお互いの理解が深まっていきます。同時に台北住民側から、現存する街並みの保存運動がおこり、行政がサポートしていきます。このビデオもその成果でした。

台湾に残る日本

日本の植民地支配は決して許されるべきものではありませんが、台湾統治が他の植民地とは異なっていたようです。内地ではできない都市計画や土木建設を現地のために大切に考えて臨んだ日本人が多く居たためか、日本人が置き去ってきた昔の人の良さが、現地に未だ息づいていることに、また日本住宅の街並み保存に努力する現地住民を行政がしっかり支援している姿に、かえって我々現在の日本が学ぶことが多いと感じました。(鈴木)



台北の住宅(平野さん撮影)



奥沢海軍村の住宅



台北の住宅(平野さん撮影)



奥沢海軍村の住宅

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

東工大歴史探訪 (少年時代の冒険)

昭和20年代に、公園・野球場・学校のプールが無い子供時代を奥沢で過ごした私たちにとって、東工大は、呑川・ひょうたん池・茂った暗い林の冒険、また構内に残っていた戦中の残留物の探検ができる貴重な場所でした。一方時計台のある東工大はどの家からも眺める事が出来たために、親からは「一生懸命勉強してあそこに入るのですよ」と説教されたものです。当時をしのぶため今回お二人と東工大を探訪し、写真や記録が殆どなかったため、大学を訪ね資料を提供して頂きました。(鈴木)

思い出の東工大

奥沢二丁目 宗 昭行

戦争中の東工大を思い出すと一番強烈な印象が、夜の闇に浮かぶ時計塔の高い建物の不気味な姿である。幼い小学生には、さながらディズニー映画に出てくる魔法のお城の塔のように見えた。今と違って構内に高い建物が少なくアメリカ軍の飛行機の攻撃目標にならないように真っ黒の迷彩をほどこしていたためだろう。

一方で、昼間の東工大は小学生に楽しい遊び場を提供してくれた、野球とプールである。その頃のキャンパスは、今と違って外から入れる入口が幾つかあって小学生でも簡単に入ることが出来た。野球少年だった私は、東工大のグラウンドで大学生の野球を見るのが好きだった。

その頃の東工大は強く東都リーグの一部か二部にいた。青山学院大との試合を見た記憶が今もはっきり残っている、両チームとも揃いのユニフォームだったから二部リーグの公式戦だったかもしれない。

小学校の高学年から中学二年生位までは夏休みはほぼ毎日、東工大のプールで泳いだ。このプールというのが実は恐ろしいところで、実験用の巨大水槽が夏場になると営業用のプールになるという代物だから、縦20メートル横15メートル程で深さが全面3メートルだった。泳いでいる最中に脚がつったりしたら大変、慌てると三メートルの深みから浮かび上がれなくなるので「あわてない、あわてない」と自分に言い聞かせて動く方の脚だけでゆっくりとプールサイドにたどりつくということが何度もあった。

おまけに水の入れ替えも十分ではなかったのだろう、透明度も低いから底に沈むとなかなか見つからない。一シーズンに何名か水死者が出るという嘘か

誠かの話も出て、数年後に公開をやめた。昭和26、7年頃のことである。

東工大の呑川で遊んだ子供

奥沢二丁目 赤松 章男

小学生の頃の私に馴染み深かったのは、呑川本流より支流の九品仏川でした。子供の頃は呑川と呼んでいましたがいつのまにか九品仏川になってしまいました。明治以前には別の名で呼ばれていたようです。

先日犬の散歩の時九品仏川緑道を辿り、ねこじゃらし公園迄行きました。九品仏の池や八幡中学校先の四角い溜池跡近く等、昔の風景が懐かしく思い出されました。私が八幡中学校に入学した頃には全て埋められて既に住宅地化されていましたが。

子供達がたまに群れをなして遠征していたのが、九品仏川と呑川が合流する東工大でした。目蒲線沿いの道を歩いて行くと合流地点近くに、欄干が丸太1本しかない粗末な橋がかかっていました。すぐ側に平行して設置してある直径40cmの水道本管を支え無しで渡るのが子供達のささやかな自慢でしたが、私は何度挑戦しても落ちそうでどうしても渡れませんでした。

またある時は、年上の幼馴染みと一緒に東工大緑が丘地区東側の崖に露出していた粘土を取りに行きました。そこは等々力溪谷と同じように荏原台地を削って崖をつくり、川幅を広げ流れも早くなり、友達は下駄を流し溺れそうになりました。粘土といっても武蔵野台地の基盤である固い上総層群ではなく、その上に堆積している東京層(下末吉層)という質のよくない粘土質の泥岩層で、さらにその上には5万年前の多摩川の川底で湧き水をもたらす武蔵野礫層が載っています。

3人の記憶から当時の東工大遊園地の略図を作り、当時の景色を東工大の資料から選んでみました。読者から更なる情報を頂き、より正確なものにしていきたいと思います。(鈴木)



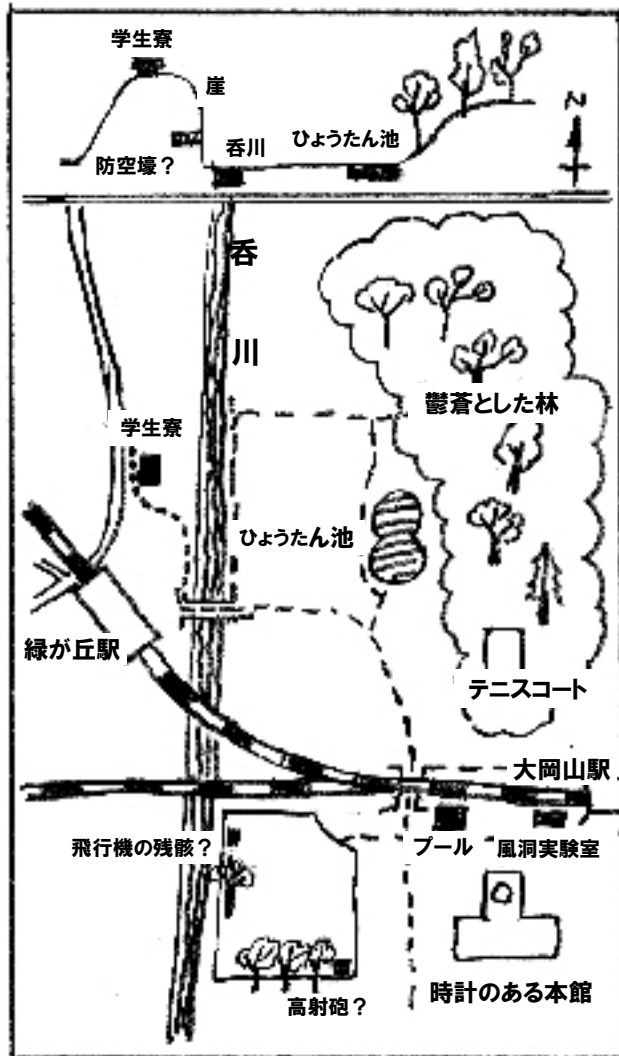
(現在の呑川：暗渠、右が崖)



(学生寮；向岳南寮 ①)



(当時のグラウンドと大学本館) ③



(当時のひょうたん池②)



(船舶工学用水槽(プール) ①)



(迷彩を施した本館) ①)

出典 ①：蔵前工業会創立100周年記念特集 ②：東京工業大学六十年史 ③：東京工業大学百年史通史

早春のつどいレポート2

おくさわコンサート♪ピアノと合唱

浦沢さんは、常に人生を楽しみ、創り出す喜びを味わいながら巾広く創作活動を続けていらっしゃる方です。現在(2月)も田園調布ギャラリーで”神々の物語”という布による作品を発表中とのこと。1月には文学賞に応募する小説を書き上げられたそうです。「今日は皆様の前でピアノを弾ける幸せを感謝します」とご挨拶なさって、力強く情感をこめた演奏が始まりま

した。宇宙・別れの曲・愛の夢・ご自身の即興曲演奏で、心から楽しんでピアノを弾かれる御様子が聴く者にも伝わり親しみ深い演奏でした。続い



て会場の皆さんの合唱で、アヴェマリア・スワニー河・オーソレミオを歌い、楽しい時間を過ごしました。会場の中から日頃コーラスグループなどで歌っていらっしゃる方々で即席のグループが1、2分で編成され、とても即席とは思えない息の合ったみごとな歌声でサンタルチアやローレライなどを聴かせて下さって、楽しい和やかなひとときを終わりました。(柳島)



柳美里「窓のある書店から」

皆さんは「窓のある書店から」というエッセイ集をお読みになったことがあるでしょうか？

タクシーに乗ったころには深夜一時をまわっていた。／「お客さん、お客さん。自由が丘ですけど」／という運転手の声で私はびくっと目を醒ました。／「奥沢はどう行けばいいの？」／「駅前がいいです」／運転手は返事をせずにつぎの角を左折して踏切を渡った。／コンビニエンスストアの前を通り過ぎると窓のある書店が見えた。（「ミステリーの巻」）

先刻の老人は駅前の噴水広場にいた。・・・中略・・・老人はフランスパンを掴んで、内股気味の歩き方でよろよろと噴水のそばに近寄り、パンを千切って散蒔いた。老人の足下に、広場の公孫樹や駅ビルの上から鳩が舞い降り、フランスパンをつ

つき始めた。歯のない口をくわっとあけた老人は、赤ん坊のような笑顔になった。（「伝記の巻」）
窓のある書店の隣には歯科医院がある。その前のガードレール沿いで草花が売られていた。ときどき如雨露で水をやっている老人の姿を見かけた。草花の名前が書かれた札がついている小さな鉢、鉢を置いてある細長い台にはく売上は交通遺児に寄付しますと書かれた錆びた鉄製の貯金箱があった。（「老人の巻」）

これを書いた1990年代、柳美里氏は奥沢に住んでいたようです。

若い女性作家の目は、長く暮らす者が見落としがちな街のなにげない情景を生き生きととらえています。今では失われてしまったものもありますが、「窓のある書店」のイメージモデルと思われる店舗は、現在も当時と変わらぬたたずまいを見せています。（香山）

失われゆくみどり

奥沢4丁目38の住宅に植えられているヒマラヤ杉やモチの木など数々の大きな庭木が伐採されるという情報が寄せられました。急な事で引き取って植える場所も無く、更地にすることが既に決まっている以上、本当に残念ですがどうする事もできません。一方、2丁目の栗原邸では家の建替え工事が進む中、以前から庭に植えられていた木たちはそのままに、生き生きと芽ぶきの季節を迎えています。守られて生きていく木と、切られて命を終る木と、人の運命にも似てあわれを感じます。木の命を条例などの規制によって守ることが出来ない現状では、私たちの出来ることは限られます。昨年会が関わった2丁目小野邸のように、お庭の草木を希望者に分けるような形にする努力を、今回の延命を願って情報を下さった方などと共に続けて行きたいと思っています。（柳島）

活動報告

- 1月来られた世田谷生涯大学の紹介で、「世田谷ウォーキングフォーラム」の方々45名が、地域風景資産「大ケヤキのある散歩道」と「奥沢海軍村ゆかりの風景」の道を見学されました。
- 今後の会活動：会の充実をはかるために、新しい活動を含めた議論しています、アンケート調査を検討中です。
- チェリーセージメンテナンス：4月18日と25日に鉢替えを中心に恒例のメンテナンスを行いました。

会からのお知らせ

- ミニ園遊会は5月22日（土）11時30分（雨天翌日）より、奥沢2-32-15のいつもの空地をお借りして開催します。皆様のお越しをお待ち致します。
- NPO法人土とみどりを守る会総会を園遊会に先立ち10時30分から開催します。会員の皆様には出欠の葉書を届けましたので、総会欠席の場合は委任状に捺印の上御返送下さい。22日雨の場合は23日に、両日共に雨の場合は奥沢東地区会館2階で行います。
- 毎年、ミニ園遊会の会場にお借りしている空地の地

主さん原佳男さんが3月11日に亡くなりました。いつも快くお願いを受け入れて下さったご厚意をあらためて感謝申し上げます、心から御冥福をお祈りします。

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します。入会のご連絡は下記へ。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558

ホームページ ; <http://tsuchimidori.net>

e-mail: info@tsuchimidori.net